

Ⅲ - 3 第4期ビジョンの施策の展開方向と具体的取組

設定した重点取組を踏まえ、4つの基本方向ごとの展開方向と具体的な取組を以下のとおりに示す。

1 芸術文化を創造・発信する

(1) 芸術文化を担い、育て、つなげる人材を育成する

【展開方向】

- 第3期ビジョンの検証結果からも、若者世代が自ら芸術文化活動を行う機会の創出が求められており、高校生の部活動支援や、若者への留学等の提供を通じて、若者世代の芸術文化活動を支援していく
- 芸術系学科を有する県立高校での教育、兵庫芸術文化センター管弦楽団でのアカデミー機能、芸術文化観光専門職大学での人材育成等により、若手芸術家や専門人材を輩出していく
- 一方、若年層を中心に芸術文化の裾野を広げていくことも重要であるため、本県ゆかりの一流アーティストによる指導や発表・交流の場の拡充等により充実させていく
- また、県立の芸術系学校や芸術文化観光専門職大学との連携、卒業生との連携をさらに高め、ロールモデルを示していく

主な取組

① 若者世代（若年層）の活動支援 【重点取組1】

- 高校生部活動等の練習や発表の場の充実（アートで躍動Z世代文化部応援プロジェクト、近畿高等学校総合文化祭等）
- 国際的に活躍する若手育成（「海外武者修行」応援プロジェクト等）

② 若手芸術家の発掘・育成 【重点取組1】

- 兵庫県芸術奨励賞、坂井時忠音楽賞など若手芸術家の顕彰制度の実施
- ひょうごアーティストサロンによる芸術家等への情報提供や発表・交流の場の確保
- 新進・若手芸術家の掘り起こしと支援など、つながる芸術文化プロジェクトの推進
- 新進美術家の登竜門である「県展」や県立美術館若手作家発掘育成事業などによる、若手作家の育成・発掘の推進
- 県立高校芸術系学科における若手芸術家の育成と卒業生との連携強化
- ピッコロ演劇学校、兵庫芸術文化センター管弦楽団、スーパーキッズ・オーケストラ等の運営による若手芸術家の育成

③ 芸術文化活動を支えるプロフェッショナルの確保・育成 【重点取組1】

- 芸術文化観光専門職大学におけるアートマネージャー等専門人材の育成
- 芸術文化観光専門職大学の学生による県内ホール等での実習等を通じた施設の現場を知る機会の充実

- ・ ピッコロ舞台技術学校における舞台技術者の育成
- ・ 県立芸術文化センターでのアートマネジメント講座の開催等による芸術文化プロデューサー等の育成
- ・ 歴史文化遺産の活用を図るヘリテージマネージャー等の人材育成

④ 文化ボランティアの育成・活用

- ・ ひょうごボランティア基金による地域の文化ボランティア活動等への支援
- ・ 社会教育施設で活躍する文化ボランティアの資質向上



芸術文化専門人材の育成（芸術文化観光専門職大学）

芸術文化と観光を架橋し、新たな価値を創造することを目的に令和3年4月に開学した芸術文化観光専門職大学では、授業の1/3（約800時間）を実習に充てるなど現場経験を通じた実践的な教育を行っています。令和7年3月に卒業した1期生の就職率（※）は98.2%（県内就職率20.8%）で、芸術文化分野では、全国の拠点となるような劇場や県内の劇場のほか、劇団、映像制作会社など、幅広く人材を輩出しています。（※就職決定者/就職希望者）

卒業生からは、「実習やグループワークで色々な人と出会い、対話を重ねる経験ができた」（劇団技術スタッフ）、「豊富な実習先で数多くの経験を積むことができた」（旅行代理店）など、大学での学びを振り返る声が聞かれました。

1期生の主な就職先（芸術文化専門職大学HPから）

芸術文化分野	四季(株)（劇団四季）、(株)宝塚舞台、(公財)兵庫県芸術文化協会、(公財)東京都歴史文化財団(東京芸術劇場)、(公財)北九州市芸術文化振興財団(北九州芸術劇場)、(一社)POST(城崎国際アートセンター) 他
観光分野	(株)オリエンタルランド、(株)JTB、ANA エアポートサービス(株)、日本テーマパーク開発(株)、(一社)豊岡観光イノベーション 他



大学外観



劇場プロデュース実習



アートで躍動 Z 世代文化部応援プロジェクトの実施

令和6年度から若者世代の芸術文化活動を支援するため「アートで躍動 Z 世代文化部応援プロジェクト」を開始。運動部と比べて発表機会の少ない文化部の発表の場を提供する「高校生文化部フェス」と、複数校で実施する合同練習等に専門指導者を派遣する「合同練習会」を加えた2本立てで高校文化部の活動を支援しています。

「高校生文化部フェス」に参加した生徒からは、「他校と交流したことで、良い刺激になった。」「普段は発表の機会が少ないので、大勢の前で発表できて自信につながった。」といった声が寄せられました。また、合同練習会（茶道）に参加した生徒からは、「普段は体験できない本格的な茶室での稽古で、いつもとは違う学びがあり感銘を受けた。」といった感想が届きました。

「合同練習会」
(スキルアップ・生徒間の交流)



茶道



吹奏楽

令和7年度：吹奏楽、合唱、弦楽、書道、演劇、写真、
茶道、いけばな、日本画

「高校生文化部フェス」
(発表の場)



ファッションショー



マーチングバンド



いけばなパフォーマンス

令和6年度参加校：18 分野 24 校
(来場者約 3,000 人)



県展 (H/ART) の開催

昭和37年に創設された「県展」は、兵庫県内で日頃から美術作品の制作に励む方々を対象に、原田の森ギャラリーの各展示室を会場として、絵画、彫刻・立体、工芸、書、写真、デザインの6部門で作品を公募し、入賞作品の中から選ばれる県展大賞のほか、県民の投票で選ばれる「県民賞」も設けてきました。

60年以上続く歴史ある公募展で、アマチュア芸術家の登竜門としての役割も果たしてきましたが、近年、作品数や来場者の減少といった課題が顕在化。開催時期について懸念する声も上がっていました。

このため、令和7年度からは会場を兵庫県立美術館に移し、愛称「H/ART (ハート)」を掲げて、新たなステージを迎えました。これを機に、若者世代をはじめ幅広い層の方々に応募しやすく、より多くの県民の皆さんが鑑賞に訪れていただけるよう、さらなる充実をめざしていくこととしています。

H/ART

「県展」愛称



「2025 県展」の様子 (神戸新聞社提供)



県民会館の閉館と新たなギャラリー機能

文化活動の場として長年多くの人に親まれてきた兵庫県民会館は、耐震性の不足が判明したことを受け、令和7年3月末にその歴史に幕を下ろしました。

絵画や写真、書など、さまざまな発表の場として県民会館を利用いただいた方々からは、活動の場が減ってしまったなどの声も寄せられています。

現在は、原田の森ギャラリーや県立美術館ギャラリー、神戸生活創造センター展示ギャラリーなどの県立施設を案内しており、来年度には、兵庫津ミュージアムの第1企画展示室をギャラリーとして追加開放するなど活動の場の確保を進めています。

また、新庁舎の建設にあたってはギャラリーの整備を新庁舎整備の基本方針に組み込んでおり、今後も創作の場が途切れることのないよう、関係者と連携しながら活動の場の不足解消に努めていきたいと考えています。

<主な県立ギャラリー>

・原田の森ギャラリー

	面積
本館1階	600㎡
本館2階	1,300㎡
東館1階	230㎡
東館2階	240㎡



原田の森ギャラリー 本館2階

・兵庫県立美術館

	面積
ギャラリー	815㎡



県立美術館 ギャラリー

・神戸生活創造センター

	面積
展示ギャラリー	99㎡



神戸生活創造センター 展示ギャラリー

・兵庫津ミュージアム

	面積
第1企画展示室(令和8～)	200㎡
第2企画展示室	140㎡



兵庫津ミュージアム 第2企画展示室



兵庫県民会館(外観)・特別展示室



(2) 芸術文化の拠点機能を高める

【展開方向】

- ・ 県内の芸術文化施設が、魅力的な公演・展示を行うとともに、プレミアム芸術デー等も活用したさらなるネットワーク化や、若手職員や大学生等のアイデアの積極的な活用により、発信力や事業展開における総合力を発揮する
- ・ 一方、少子高齢化や物価高、施設の老朽化など各施設に共通する課題が生じており、県立芸術文化センターや県立美術館における活性化策の検討結果を他の施設でも共有する
- ・ あわせて、計画的な大規模修繕を含め、芸術文化施設の適切な維持・保全、老朽化対策を進めるとともに、旧県民会館でのギャラリー等機能については、新庁舎等整備プロジェクトの基本構想を踏まえた検討を進める

主な取組

① 芸術文化事業の企画・実施

- ・ 美術館・博物館等における魅力的な企画展・特別展等の開催
- ・ ホール・劇場等における魅力的な公演の実施
- ・ 地域で親しむ舞台芸術応援事業等を通じた各地域のホール等の企画力向上
- ・ 各施設における若手職員のアイデアの積極的な活用

② 県内外の施設とのネットワークの拡充による利活用の促進

- ・ 公立文化施設協議会、兵庫県博物館協会などネットワーク組織の運営
- ・ 複数施設が連携した共同企画による公演・展覧会の開催や人材育成の取組
- ・ HYOGO ミュージアムスタンプラリー事業の実施など複数施設が連携した情報発信
- ・ ひょうごプレミアム芸術デーを契機として、県内の多様な施設のネットワークを構築

③ 芸術文化施設の時代の変化を踏まえたあり方検討と共有 **【重点取組4】**

- ・ 県立芸術文化センターや県立美術館での先進事例をリーディングケースに他施設へ共有（若者対策や文化観光との連携等）

④ 芸術文化施設の適切な維持・保全、老朽化対策等 **【重点取組4】**

- ・ 安全安心を基本とした適正な維持管理・長寿命化、計画的な老朽化対策・耐震化の推進
- ・ 指定管理者制度による施設の効率的な管理運営やネーミングライツを活用した財源の確保

⑤ 旧県民会館におけるギャラリー機能等の検討推進 **【重点取組4】**

- ・ 新庁舎等整備プロジェクト基本構想を踏まえたギャラリー・ホール等整備に向けた検討



Topics

芸術文化センターのあり方について ～さらなる20年の持続・発展に向けて～

県立芸術文化センターは、阪神・淡路大震災からの心の復興・文化の復興のシンボルとして平成17年に開館し、世界的指揮者である佐渡裕芸術監督のもとで良質で多彩な舞台芸術を県民に届け続け、高いホール利用率とチケット券売率を維持し、公営ホールとしては最も成功しているホールの1つとして評価されています。

令和7年10月に開館20周年を迎え、さらなる持続・発展に向け、取り巻く環境等を踏まえた今後の展開について検討を行いました。

その結果、①これまで多くのファンの方々から熱心なご支持をいただいていた一方、公演によっては、観覧者の7割近くが60代以上となっているなどファン層の固定化・高齢化も顕著となっており、今後はSNSでの発信や子ども向けのイベント、U25チケットの導入などにより若者・ファミリー層がより利用しやすい環境づくりを進めていく、②物価高騰・為替変動などの顕在化、20年を経過した施設の老朽化も進んできており、県の財政支援とともに、チケット代の値上げやネーミングライツ、ふるさと寄附金などによる幅広い支援を求めていくことにより、これからも良質な公演を持続してお届けできる環境の整備に努めていくこととしました。



Topics

西日本最大級規模の安藤建築による美術館 ～開館30年に向けたさらなる持続・発展～

兵庫県立美術館は、阪神・淡路大震災からの「文化の復興」のシンボルとして平成14年に神戸東部新都心（HAT神戸）にて開館した西日本最大級を誇る、安藤忠雄氏設計の美術館です。

安藤氏の設計及び寄贈により令和元年に増設されたAndo Galleryでは、建築模型をはじめ、構想スケッチやドローイングを展示しています。Ando Galleryの入場者数はコロナ禍後急増して、令和5年度以降毎年10万人を超えており、その入場者の8割程度は東アジアや欧米圏からのインバウンド客です。このAndo Galleryは令和7年度に大幅な展示替えやウェブサイトの日英化を実現しました。

開館から20年を超える兵庫県立美術館は、大規模改修工事の必要性とともに時代に即した運営の見直しが迫られるなか、安藤建築の強みを活かした館運営にも改めて取り組んでいきます。



©Masaki Tada



©Nobutada Omote



Topics

兵庫津ミュージアムにおける五国の魅力発信

神戸市兵庫区・神戸港西側一帯は、古代には大輪田泊（おおわだのとまり）、中世以降は兵庫津（ひょうごのつ）と呼ばれ、平清盛や足利義満らにより国際貿易港として栄えました。幕末には諸外国との条約で開港場となり、開港の約半年後の1868年7月、この地に初代兵庫県庁舎が設置されました。

このような兵庫県の「はじまりの地」に令和3年11月にオープンした「県立兵庫津ミュージアム」は、初代県庁舎を復元した「初代県庁館」と兵庫の成り立ちや地域資源等を分かりやすく発信する博物館施設「ひょうごはじまり館」の2施設から成り、展示や、講演、教育プログラム、日本遺産をはじめとした県内の魅力を発信するイベントを多数実施しています。



初代県庁館



ひょうごはじまり館



日本遺産を発信する企画展

（3）芸術文化の発信力を強化する

【展開方向】

- ICT等の活用により、若者から高齢者まで各世代の関心やライフスタイルに応じたきめ細やかな情報をその世代に最適な媒体・手法により発信していく。その際、若者等を意識し、動画等を積極的に活用していく
- 一方、地域偏在については、なお解消されておらず、神戸・阪神間以外のホールでの公演の促進や都市部からの配信など、より直接的な働きかけも行い、是正に取り組む
- 大阪・関西万博の盛り上がりを引き継ぎ、ワールドマスターズゲームズ2027関西、神戸空港の国際化などを契機として、インバウンドを見据えた国際的な発信力の強化に努める

主な取組

① ICT等を活用した多彩な芸術文化情報の発信等 【重点取組1】

- ホームページ、SNSなど、媒体の特性を考慮した情報発信
- Instagram、YouTubeでのショート動画の活用など若者を意識した発信
- 芸術文化施設が開催する講習会やセミナーなどを、オンラインを通じて配信
- インターネット上でのバーチャルミュージアム（兵庫ミュージアムツアー（VR体験・バーチャルツアー））等の運営

② 芸術文化の活動・鑑賞機会等に関する地域偏在の是正 【重点取組2】

- ピッコロ劇団や兵庫芸術文化センター管弦楽団による各地域のホールでの公演
- ホームページ、広報誌等による地域に向けた積極的な芸術文化情報の発信
- 地域で親しむ舞台芸術応援事業による神戸・阪神間以外のホール等での公演の促進
- 兵庫芸術文化センター管弦楽団の公演など県内ホールでの優れた公演の各地域のホール等への配信

③ 国際的な芸術文化活動の展開・発信 **【重点取組3】**

- ・ 県立芸術文化センターの佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ等、兵庫の文化力を生かした国際的な芸術文化活動の展開
- ・ 芸術文化施設のイベント情報、展示説明等の多言語による情報発信の充実
- ・ 万博を契機とした連携プロジェクト(美術館、音楽)やフィールドパビリオンの継続・発展



大阪・関西万博「ひょうごフレンドシップウィーク」
における兵庫の魅力発信

令和7年9月、大阪・関西万博の関西パビリオン多目的エリアにおいて、兵庫県と各分野で連携する府県が共通の地域資源や連携した取組を一体的に発信し、広域的な誘客促進を図るため「ひょうごフレンドシップウィーク」を開催しました。

兵庫県では、岡山県・香川県と連携した瀬戸内の芸術をテーマに、兵庫陶芸美術館と丹波立杭陶磁器協同組合が協力して丹波焼の展示、ガラメン（丹波焼の破片）を使ったアクセサリー制作のワークショップを開催するとともに、県立美術館などの県内の社会教育施設を紹介し、万博来場者に兵庫の魅力や文化力をPRしました。



ミyakumyakとはばタン



ガラメンを使ったワークショップ



芸術文化施設のPR



Instagram「兵庫アートポータル」での情報発信

大阪・関西万博の開催にあわせて、本県が有する厚い文化力を発信し、誘客を促進することを目的に、令和5年度からInstagramアカウント「兵庫アートポータル」の運用を開始しました。

県内の文化施設や、「ひょうごプレミアム芸術デー」をはじめとした県内の芸術文化イベントを中心に紹介しています。

アカウント開設から3年が経過し、フォロワー数や認知度は着実に向上してきました。今後は、ショート動画をより積極的に活用するとともに、県立施設に加え、プレミアム芸術デーで広がったネットワークを活かし、市町立や民間の施設・イベントについても積極的に発信し、若者を含む幅広い層に本県の魅力を伝える取組を展開していきます。



ショート動画での情報発信



県内文化施設・イベントの紹介

2 芸術文化の“場”を育て広げる

(1) 地域で多様な“場”を育て広げる

【展開方向】

- 「県民芸術劇場」や「ふれあい文化の祭典－県民文化普及事業」など県民向けの「場」を、これまでの実績を活かしながら、さらなる魅力を加えて引き継いでいく
- 令和8年度の近畿高等学校総合文化祭や令和6年度から開始している高校生文化部フェスの定着により、若者の交流を促す
- 県民や芸術文化団体向けの支援など芸術文化活動への支援を継続する

主な取組

① 芸術家等が地域へ出向くアウトリーチ活動の推進 【重点取組2】

- 県民芸術劇場（学校公演・一般公演）による優れた芸術文化公演の提供
- 兵庫芸術文化センター管弦楽団やピッコロ劇団等によるアウトリーチ活動
- 県域文化団体による地域の学校・施設等へのアウトリーチ活動
- 美術館・博物館等における教員を対象とした解説会やセミナーの実施
- アウトリーチ活動にかかる調整機能の充実とデータベース化

② 様々な場所の芸術文化発表の舞台としての活用 【重点取組2】

- 県市町の文化施設等におけるロビーコンサートなど、多様な芸術文化の場の活用
- 空き店舗や空き施設等における芸術文化作品の展示・公演など、芸術文化活動の促進

③ 交流の機会の創出と充実

- 「ふれあい文化の祭典－県民文化普及事業」の開催
- 兵庫県中学校総合文化祭・高等学校総合文化祭、近畿高等学校総合文化祭の開催等
- 新たな発表の場・交流機会としての高校生文化部フェスの定着

④ 県民の芸術文化活動への支援

- 県民や芸術文化団体の芸術文化活動に対する助成
- 芸術文化を学ぼうとする県民に対する支援
- 知事賞の贈呈、県名義での後援など、各種文化活動への奨励と支援
- 芸術文化活動機会促進事業による、舞台公演、作品展示、発表や出版等の活動の活性化
- 県域文化団体の活動支援事業による、美術や書道、吟詠、短歌など流派等を超えた広く県域にわたる活動の支援



全日本川柳 2025 年神戸大会の開催

令和7年6月、阪神・淡路大震災から30年を迎える節目の年に、県内では初となる「全日本川柳大会」が神戸で開催されました。日本全国の4,293名から投句が寄せられ、大会当日は、震災復興をルーツに持つ和太鼓松村組の演奏で幕を開け、赤井花城実行委員長から、震災当時に寄せられた全国の柳社や柳友からの激励と支援への感謝が語られました。

会場は温かな思いに包まれ、文部科学大臣賞には広島県の高東八千代さんの「飄飄（ひょうひょう）と生きて軽めの石で良い」、兵庫県知事賞には地元・兵庫県の中学1年生・網本健人さんの「蛹（さなぎ）から夜明け飛び立つ僕の夢」が選ばれました。震災からの復興を原点に、芸術文化が人々を結び、未来への希望を紡ぐ大会となりました。



大会旗の引継ぎ



ジュニア部門の講評の様子

（2）芸術文化による共生社会の実現

【展開方向】

- ・ 県民誰もが芸術文化に親しめるよう、令和4年度からプレミアム芸術デーを実施しているが、引き続き、年齢や国籍、障害の有無等にかかわらず、誰もが芸術文化活動に取り組むことができ、そのために必要な情報に容易にアクセスできる環境を整えていく
- ・ ひょうご障害者芸術文化活動支援センターを核とする「する・みる・ささえる」応援プロジェクトとして、初期支援やアドバイザーの設置による裾野の拡大、障害福祉サービス事業所のレベルアップなど次なる展開を図るとともに、県立美術館や県立芸術文化センター等の県立施設とセンターが連携し、障害者芸術への県民理解の促進に取り組む
- ・ また、若者対策とともに、高齢者にとっての居場所や、世代間の交流という視点も持ち合わせる

主な取組

① 誰もが芸術文化を享受できる環境づくり 【重点取組2】

- ・ 県民誰もが芸術文化に親しめる機会を提供するプレミアム芸術デーの展開
- ・ バリアフリー改修など、すべての人に優しい施設づくり
- ・ 災害被災者の主催事業への招待

② 障害者の芸術文化活動への支援 【重点取組2】

- ・ 障害者芸術文化活動支援センター「する・みる・ささえる」プロジェクト
- ・ 常設展示場「兵庫県障害者アートギャラリー」での定期展示
- ・ 施設運営者対象の合理的配慮研修、手話通訳者等の派遣

- ・ユニバーサルな映画鑑賞会の開催、ユニバーサルなミュージックフェアの開催
- ・作品制作のスタートアップ支援、新たな障害者アーティストの発掘
- ・障害者芸術文化活動支援センターの機能及び体制の充実を検討（アドバイザーの設置や関係者による意見交換会の開催等）
- ・兵庫県障害者芸術・文化祭の開催
- ・ピッコロシアターや県立芸術文化センターによるアクセシビリティ公演

③ 高齢者の芸術文化活動への支援 【重点取組2】

- ・いなみ野学園、阪神シニアカレッジなどの高齢者大学等の運営
- ・「ひょうごインターキャンパス」等による様々な形での生涯学習情報の提供

④ 外国人の芸術文化活動への支援 【重点取組2】

- ・芸術文化施設ホームページや施設内における多言語表記
- ・県内大学の留学生を対象とした日本の伝統文化体験講座の開催
- ・ピッコロ劇団員による外国人を対象にした演劇の手法による日本語ワークショップの開催

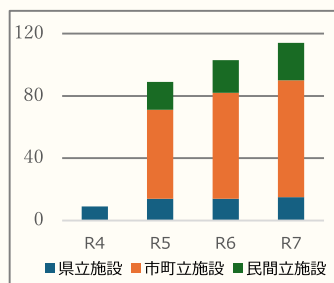


ひょうごプレミアム芸術デーの実施

令和4年度から、県内の美術館・博物館を夏休み前の1週間、無料開放等する「ひょうごプレミアム芸術デー」を実施しています。令和4年に県立9施設で開始しましたが、市町や民間の施設に参加を呼び掛けることで4年目となる令和7年度は114施設にまで拡大しました。プレミアム芸術デーを契機に初めて施設に来館した方が40%を超えるなど、県の多彩な芸術文化を味わっていただくきっかけを創出しています。

また、県立施設を中心に、誰もが芸術文化に親しめる環境づくりを先導し、子ども連れの方や障害のある方を優先的に案内するハートフル・ファストトラックや手話通訳付き解説会、一時保育の実施などにも取り組んでいます。取組の一環として開始した「自由に話せる観覧日」については、期間中のみならず、毎月第二日曜日に設定するなど、取組を広げています。

参加施設推移



施設への来館回数（令和7）
（※アンケート結果より）





Topics

ユニバーサルな映画鑑賞会、ミュージックフェアの開催

兵庫県では、障害のある方々の文化芸術活動を通じた社会参加を支援するため、令和2年度から、発表機会や文化芸術鑑賞機会の確保、文化芸術活動を支える人材の育成等を目的とする「障害者芸術『する・みる・ささえる』応援プロジェクト」を推進しています。

これまで、障害者アートギャラリーの運営や体験ワークショップ、障害者の観劇時における合理的配慮に関する研修など様々な事業を実施してきました。さらに令和6年度からはユニバーサルな映画鑑賞会を、令和7年度はユニバーサルなミュージックフェアを開催しており、映画鑑賞会に参加した保護者の方から、「直接映画館で映画を観る機会が少なく、貴重な経験となった。今後も実施して欲しい。」との感想をいただくなど好評を得ており、引き続き、障害者の文化芸術活動の推進に取り組んでいきます。



ユニバーサルな映画鑑賞会



ユニバーサルなミュージックフェア



Topics

ピッコロシアター及びピッコロ劇団がバリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰(内閣府特命担当大臣表彰優良賞)を受賞

県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター)及び県立ピッコロ劇団による被災者支援活動や、障害のある方への鑑賞サポート等の取組が評価され、令和6年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰「内閣府特命担当大臣表彰優良賞」を受賞しました。受賞を励みとして、ピッコロシアターのミッションである「芸術で地域をつなげてみんなが生きやすい社会」をめざし、今後とも地域における演劇文化の普及発展に努めていくこととしています。

<主な活動>

- ・演劇による被災者支援(阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震等)
- ・障害のある方に対する鑑賞サポート(自作の字幕や音声ガイド、手話等)
- ・劇団員による在留外国人の地域コミュニティ参加支援(やさしい日本語による演劇ワーク)



音声ガイド(状況放送)



日本語を使ったワークショップ



内閣総理大臣官邸での表彰式

(3) 青少年が本物の芸術文化に親しむ

【展開方向】

- 国が進める中学校の部活動の地域展開等により、これまで以上に、地域における子ども・若者が芸術文化活動を実施するきっかけづくりが重要になることから、様々なチャネルを通じて、体験機会を充実させる
- 引き続き、学校との連携のほか、家庭や地域においても本物の芸術文化に触れる機会を提供する

主な取組

① 青少年が本物の芸術文化に親しむ機会の充実 【重点取組1】

- 県民芸術劇場等による優れた芸術公演の提供（再掲）
- 子ども伝統文化わくわく体験教室の実施
- 伝統文化以外も幅広く子どもへ芸術文化を体験させる機会の充実
- ひょうごプレミアム芸術デーにおける子どもの体験機会の充実
- 兵庫芸術文化センター管弦楽団やピッコロ劇団等によるアウトリーチ活動（再掲）
- 兵庫陶芸美術館と丹波立杭焼伝統工芸士による陶芸出前講座の実施
- 県域文化団体による地域の学校・施設等へのアウトリーチ活動（再掲）

② 学校教育との連携の推進 【重点取組1】

- わくわくオーケストラ教室等における事前事後指導の充実
- 中学生のための演劇鑑賞体験事業「ピッコロわくわくステージ」の実施
- 高校文化部及び複数校合同練習会への一流芸術家による直接指導の補助
- 各種コンクールでの絵画や作文の募集など、適時・適切な学校への情報提供

③ 複数世代で楽しめる機会の充実 【重点取組1】

- 県立施設における親子で楽しめる公演や体験講座の実施
- 幅広い世代に体験機会を提供する伝統文化体験教室や、県公館を利用した芸術体験イベントの実施

④ 文化の担い手の発掘・育成に向けた青少年への魅力発信 【重点取組1】

- 伝統文化ほか様々な分野の芸術文化に気軽に触れ合える場の提供
- 祭りや伝統芸能等、地域固有の文化資源に関する普及事業



子ども・若者向け芸術文化体験機会の充実

兵庫県では、従来から子ども・若者向け芸術文化体験施策を先導的に実施しています。代表的なものとして、県内の小・中学校、高校、特別支援学校の児童生徒を対象に、いけばな、茶道、書道、邦楽等の伝統文化6分野を体験する「伝統文化わくわく体験事業」(平成27年)があります。参加した生徒や学校関係者からは貴重な体験機会として評価されており、継続的に多くの参加希望が寄せられています。

また、子ども・若者に、伝統文化の魅力を実演や体験コーナーを通じて紹介する「伝統文化ふれあい広場」(平成18年)もその1つです。気軽に伝統文化を体験できるイベントとして親しまれてきましたが、開催場所である県公館の改修に伴い、令和5年度をもって終了しました。

今後、部活動の地域展開が本格化するなか、子ども・若者が芸術文化活動に参画するきっかけづくりは、より一層求められています。県としても、芸術文化のリアルな体験機会をより多く提供するため、対象分野を伝統文化に限らず芸術文化全般に拡充するとともに、利用再開した県公館を活用するなど、子どもたちが様々な芸術文化に触れる機会の創出に取り組んでいきます。

さらに、令和4年より実施し、誰もが芸術文化を楽しめる機会として定着してきた「ひょうごプレミアム芸術デー」について、これまでの「鑑賞機会」に加えて、「芸術文化を直接体験する場」を創出することで、若年層における体験機会のさらなる充実を図っていきます。

【伝統わくわく体験教室】

【伝統文化ふれあい広場】



能体験



書道体験



日本民謡



いけばな



ひょうごっこコロンカード（博物館等無料開放）事業

兵庫県では、小・中・特別支援学校（小学部・中学部）生にふるさとの歴史や自然などについて楽しく学習してもらうため、県内の多くの博物館などが無料で利用できる「ひょうごっこコロンカード」を配布しています。

県内各地の公立・私立の博物館・美術館等で利用でき、協力施設数は201施設（令和7年度）となっています。

コロンカードを通じて社会教育施設により親んでもらうため、カードにはマスコットのコロンがデザインされ、環境に優しい素材（ストーンペーパー）を採用しています。

平成4年から続く事業ですが、子どもの体験機会が重要となる今、改めて本事業が注目されます。



ひょうごっこコロンカード



コロンカード PR 活動





Topics

若手芸術家等による発信活動（おとみらい HYOGO）

兵庫県芸術奨励賞受賞者が旗揚げし、これからの兵庫の芸術文化（クラシック音楽）の振興・発展を担っていく若手・中堅の音楽家グループ「おとみらい HYOGO（音楽芸術・文化の未来を考える会 兵庫）」が2023年（令和5年）に結成されました。器楽、声楽、作曲、音楽学まで多様なジャンルの高い演奏技術と表現力を兼ね備えた音楽家45名（令和8年1月現在）が集まります。切磋琢磨しながら交流と創造を重ねるだけでなく、SNSを活用し、会員の演奏活動の広報を行うなど、積極的な発信を行っています。

本団体は、「音楽・研究を共に志すこと」、「次世代の音楽芸術・文化の創造」、「地域の文化振興」を理念に掲げ、演奏会や作品発表を通じて、兵庫から新しい音楽文化を発信しています。2026年（令和8年）には、神戸新聞松方ホールで第2回定期演奏会を開催。若き才能が共鳴するすばらしい音楽が披露され、来場者を魅了しました。また、未来を担う子どもたちに音楽の楽しさを届けたいとの思いから、小中高生は無料で入場可能となっており、気軽に音楽と出会う場を広げています。

これからのクラシック音楽界を背負い、今後の活躍が大いに期待されます。

